

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年2月14日

【四半期会計期間】 第77期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

【会社名】 森下仁丹株式会社

【英訳名】 MORISHITA JINTAN CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 駒村純一

【本店の所在の場所】 大阪府中央区玉造一丁目2番40号

【電話番号】 06(6761)1131(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 武貞文隆

【最寄りの連絡場所】 大阪府中央区玉造一丁目2番40号

【電話番号】 06(6761)1131(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 武貞文隆

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第76期 第3四半期 連結累計期間	第77期 第3四半期 連結累計期間	第76期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	7,312	7,555	9,686
経常利益 (百万円)	31	132	412
四半期(当期)純利益 (百万円)	37	117	381
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	29	238	517
純資産額 (百万円)	7,558	8,130	8,045
総資産額 (百万円)	12,477	12,832	12,867
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	1.84	5.77	18.73
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.6	63.4	62.5

回次	第76期 第3四半期 連結会計期間	第77期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額() (円)	3.21	1.35

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税)は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、アベノミクスという政府の経済政策等の追い風を受けた製造業を中心に景況感が改善し、株式市場の好転による堅調な個人消費が景況感を支えたことや、円安による輸出関連企業を中心とした企業業績の回復により、景気回復に広がりが出てまいりました。

当社グループの属する業界も、健康意識の高まりが持続し、規制緩和への期待は大きいものの、異業種を含む大手企業の新規参入や消費者の価格選好意識の存在などにより当社グループを取り巻く環境は依然として厳しいものとなっております。

このような状況のなか、当社グループとしては、創業120周年を迎え「伝統に縛られず、伝統を活かす」を理念に「伝統と技術と人材力を価値にする」をビジョンとして期初から積極的な諸施策・諸活動を展開しております。その結果、売上高は7,555百万円と前年同四半期と比べ242百万円(3.3%)の増収となりました。

利益面においては、売上総利益は3,970百万円と前年同四半期と比べ43百万円(1.1%)の増益となりました。またプロモーション費用の効率化に徹したこともあり、営業利益は112百万円と前年同四半期と比べ104百万円(1,290.0%)の増益となり、さらに営業外損益を加えた経常利益は132百万円と前年同四半期と比べ100百万円(316.9%)の増益となり、四半期純利益は117百万円と前年同四半期と比べ79百万円(212.8%)の増益となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の減価償却費は489百万円と、前年同四半期と比べ113百万円増加しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

ヘルスケア事業

当セグメントにおきましては、OTC医薬品・医療器具ならびに新商品「梅仁丹120」を中心としたオーラルケア商品が好調に推移しました。但し競合激化などにより主力商品の「ビフィーナ」をはじめとする健康食品群は苦戦を強いられました。その結果、ヘルスケア事業の売上高は5,251百万円と前年同四半期と比べ85百万円の減収に留まりました。

損益面では、プロモーション費用の効率化に徹したこともあり、セグメント利益は11百万円と前年同四半期と比べ5百万円（87.5％）の増益となりました。

カプセル受託事業

当セグメントにおきましては、医薬品分野のカプセル受託は引き続き堅調に推移し、フレーバー等新規受託先の増加もあり、その結果、カプセル受託事業の売上高は2,263百万円と前年同四半期と比べ334百万円（17.3％）の増収となりました。

損益面では、産業用等の新規分野での研究開発負担等経費の増加がありましたが、セグメント利益は102百万円と前年同四半期と比べ95百万円（1,521.0％）の増益となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、12,832百万円と前連結会計年度末と比べ35百万円（0.3％）の減少となりました。総資産の内訳は、流動資産が3,966百万円と前連結会計年度末と比べ136百万円（3.3％）の減少となり、固定資産が8,866百万円と前連結会計年度末と比べ101百万円（1.2％）の増加となりました。流動資産の減少の主な要因は、回収期間の短いカプセル受託事業の伸展による売上債権の減少によるもので、固定資産の増加の主な要因は、株高による投資有価証券の時価評価増及び通販システム導入による無形固定資産の増加によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、4,701百万円と前連結会計年度末と比べ120百万円（2.5％）の減少となりました。負債の内訳は、流動負債が2,067百万円と前連結会計年度末と比べ429百万円（17.2％）の減少となり、固定負債が2,634百万円と前連結会計年度末と比べ308百万円（13.3％）の増加となりました。流動負債の減少の主な要因は、支払期間の短いカプセル受託事業の伸展による仕入債務の減少及び設備関係支払手形の減少によるもので、固定負債の増加の主な要因は、長期借入金の増加によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は8,130百万円と前連結会計年度末と比べ85百万円（1.1％）の増加となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は476百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,000,000
計	48,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,750,000	20,750,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数1,000株
計	20,750,000	20,750,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年12月31日	-	20,750,000	-	3,537	-	963

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 405,000	-	単元株式数1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式 20,195,000	20,195	同上
単元未満株式	普通株式 150,000	-	-
発行済株式総数	20,750,000	-	-
総株主の議決権	-	20,195	-

(注) 「単元未満株式」欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 森下仁丹株式会社	大阪市中央区玉造 1丁目2-40	405,000	-	405,000	2.0
計	-	405,000	-	405,000	2.0

2 【役員】の状況

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	902	874
受取手形及び売掛金	1,370	1,197
商品及び製品	816	924
仕掛品	353	249
原材料及び貯蔵品	313	332
その他	355	396
貸倒引当金	8	8
流動資産合計	4,102	3,966
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,352	2,494
機械装置及び運搬具（純額）	993	1,760
土地	2,220	2,225
建設仮勘定	1,317	90
その他（純額）	320	391
有形固定資産合計	7,205	6,962
無形固定資産	196	340
投資その他の資産		
投資有価証券	1,197	1,391
その他	172	179
貸倒引当金	7	7
投資その他の資産合計	1,362	1,563
固定資産合計	8,764	8,866
資産合計	12,867	12,832

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,163	1,014
1年内返済予定の長期借入金	270	380
未払法人税等	39	6
賞与引当金	147	77
返品調整引当金	25	27
売上割戻引当金	42	20
設備関係支払手形	120	36
その他	686	506
流動負債合計	2,496	2,067
固定負債		
長期借入金	1,462	1,672
繰延税金負債	530	590
退職給付引当金	331	369
その他	1	1
固定負債合計	2,325	2,634
負債合計	4,821	4,701
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,537	3,537
資本剰余金	963	963
利益剰余金	3,550	3,515
自己株式	134	135
株主資本合計	7,917	7,881
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	128	249
その他の包括利益累計額合計	128	249
純資産合計	8,045	8,130
負債純資産合計	12,867	12,832

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	7,312	7,555
売上原価	3,385	3,584
売上総利益	3,927	3,970
販売費及び一般管理費	3,919	3,858
営業利益	8	112
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	10	11
受取補償金	9	-
研究開発補助金	7	17
その他	11	10
営業外収益合計	40	40
営業外費用		
支払利息	14	16
その他	1	3
営業外費用合計	16	20
経常利益	31	132
特別利益		
固定資産売却益	-	9
補助金収入	20	-
特別利益合計	20	9
特別損失		
固定資産処分損	4	15
その他	-	0
特別損失合計	4	16
税金等調整前四半期純利益	47	125
法人税、住民税及び事業税	11	13
法人税等調整額	1	4
法人税等合計	9	8
少数株主損益調整前四半期純利益	37	117
四半期純利益	37	117

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	37	117
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	121
その他の包括利益合計	7	121
四半期包括利益	29	238
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	29	238

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	14百万円	-

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	375百万円	489百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	152	7.50	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	152	7.50	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,336	1,929	7,266	46	7,312	-	7,312
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	226	226	226	-
計	5,336	1,929	7,266	272	7,539	226	7,312
セグメント利益又は損失()	5	6	12	4	8	-	8

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ヘルスケア 事業	カプセル 受託事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,251	2,263	7,515	39	7,555	-	7,555
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	233	233	233	-
計	5,251	2,263	7,515	272	7,788	233	7,555
セグメント利益又は損失()	11	102	113	0	112	-	112

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	1円84銭	5円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	37	117
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	37	117
普通株式の期中平均株式数(千株)	20,346	20,344

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月7日

森下仁丹株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 黒 訓

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 南 方 得 男

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている森下仁丹株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、森下仁丹株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。